

新型コロナウイルス対策として、対人サービスである介護・医療現場でもオンラインの仕組みを取り入れる場面が増えています。兵庫県尼崎市の長尾クリニックでも、非対面での電話診療を始めています。感染予防のため、患者は電話やオンライン通話で医師の診療を受けられ、薬を配達してもらうことも可能です。また



長尾クリニック院長  
長尾 和宏 氏

コロナ禍での時限的・特例的な取扱いとして、初診から、電話や情報通信機器を用いた診療の実施が認められるようになりました。長尾クリニック（兵庫県尼崎市、長尾和宏院長）も、電話を使ったオンライン診療に取り組んでいます。長尾氏は「最大の効果は、ICT機器が使えず、塞ぎ込んでいた高齢者であっても医療とのつながりが保てたこと」と語ります。

「電話でも可」「処方箋がもらえる」の恩恵

「コロナ禍による特例により今春より、初診を含めて電話などによるオンライン診療で診断・処方が可能となりました。その最大の効果は処方箋が出せるようになったことで、薬も薬剤師が服薬指導をした上で配送も可能になりました。これまで、患者さんなどから電話で相談を受けた場合に「電話等再診料」が認められていたのですが、処方箋はもうえませんでしたので、今回の特例により、私のクリニックは、在宅

療養患者さんや、自宅での看取りを希望されている患者さんが多いです。地域の患者さんを引き続き診ていきたいとの思いがあり、オンライン診療も30分圏内の患者さんに限らせてもらいました。多くの患者さんが従来から当クリニックの患者さんなので、「在宅での状況はどうか」「何か変わりはないか」「相談したいことはないか」と会話することで、診断と処方ができました。

在宅の高齢者にとっての恩恵が大きくなりました。当クリニックでは、新型コロナ感染症が広がり始めた頃から「通院したら感染するのではないか」「熱があるけど医療機関に診療を断られた」などで困難を抱える患者さんのためクリニック前の「屋外診療」や、クリニック横の駐車場に医師が向く「ドライブスルーテンpor」などを実践していくが、電話によるオンライン診療の緩和は、特に高齢者の患者さんのニーズに合致したものとなりました。

何より、特例前のオンライン診療はICT機器適用を条件に認められるもので、自宅の通信環境が整つておらず、ICTが利用できないなど、一番恩恵が受けられるはずの高齢者を利用しきい内容でした。「電話でも可」とした判断は正しかったと思います。

### 在宅療養を支えるツールとして

このたびは高齢者だけでなく、かかりつけ医にとってオンライン診療が求められるようになります。専門職も参加しやすくなるメリットがあります。大きな可能性を秘めるオンライン活用の取り組みを紹介します。

## オンライン診療と高齢者の在宅療養

た介護施設では、オンラインでの面会を導入する事業者もいます。そのほか、担当者会議や研修をオンラインで開催することで、感染予防だけでなく、多忙な専門職も参加しやすくなるメリットがあります。大きな可能性を秘めるオンライン活用の取り組みを紹介します。

これからは高齢者だけでなく、かかりつけ医にとってオンライン診療が求められるようになります。国は10月24日以降の新型コロナ患者への対応として、入院を求めるのは65歳以上の者、呼吸器疾患有する者、臓器機能低下の者、免疫機能低下の者、妊娠婦、重度・中等症の患者などに限定し、「無症状感染者」、「軽症者」は宿泊療養か自宅療養で対応することになりました。かかりつけ医も、原則としてPCR検査を実施するか、実施機関の紹介をすることが求められます。

つまり、無症状者・軽度者は、かかりつけ医が担当することになります。また、PCR検査の精度は7割程度といわれていますから、人によっては「陰性」と結果が出ても、肺のCT検査の結果ではコロナ感染が疑われる「偽陰性」の患者が相手数いることが分かっています。

こうした無症状者・軽度者の対応についても、オンライン診療は欠かせないものになってくるでしょう。